第４３回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会
新潟地区一次・二次予選会　大会特別規則及び申し合わせ事項

１　大会特別規則

（1）トーナメント戦とし、３位決定戦は行わない。

（2）各試合とも７回戦とし、１時間２０分を過ぎて新しいイニングに入らない。

（ア）決勝戦のみ１時間３０分とする

（イ）後攻チームが勝っている状況で制限時間に達した場合は、その時の打者の打撃中にその旨を両チームに通告し、この打者が打撃を完了して試合終了とする。

（3）７回を終了または制限時間が過ぎても勝敗が決定しない場合。

①一次予選の決勝及び二次予選の準決勝、決勝は延長戦を行わずタイブレークに入る。

※タイブレーク

（ア）継続打順とし、前回の最終打者を１塁走者とし、２塁の走者は順次前の打者とする。すなわち無死１・２塁の状態にして１イニングを行い、得点の多いチームを勝ちとする。なおも勝敗が決定しない場合は、抽選により勝敗を決する。

（イ）規則によって認められる選手の交代は許される。

②上記以外の試合は、タイブレークは行わず抽選により勝敗を決定する。

※抽選方法

（ア）審判員及び試合終了時に出場していた両チームの選手が、終了あいさつの状態に整列する。

（イ）〇印、×印各９枚を記入した用紙を封筒に入れる。

（ウ）球審が 18 枚の封筒を持ち、先行チームより１枚ずつ交互に選ばせる。

（エ）二人の審判員が両チーム監督立会いのもとに開封し、〇印が多いほうを抽選勝とする。

（4）５回以降７点差が生じた場合はコールドゲームとする。

ただし、それ以前の大差の場合、両監督による協議のうえ試合を打切ることがある。

（5）変化球について

①投手は変化球を投げることを禁止する。

②ペナルティーについて

（ア）変化球に対してボールを宣言するとともに、投手に注意を与える。

（イ）注意したにも関わらず、同一投手が同一試合で再び変化球を投げた場合はその投手を交代させる。その投手は他の守備位置につくことは許されるが大会期間中、投手として出場することはできない。

（6）投手の投球数制限について

①肘・肩の障害予防のため、１人の投手が１日に投球できるのは 70 球以内とする。

②70 球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで、又は打撃を完了する前に攻守交代になるまで投球できる。投球制限には、タイブレークの投球数を含む。

③１度降板した投手は、70 球に達するまでその試合やその日の試合に再登板できる。

④投手の投球数には牽制球や送球とみなされるものは数えず、実際に打者へ投球した球数とする。

⑤４年生以下は１日 60 球とする。

２　用具（バット・捕手防具・ヘルメット）について

（1）使用する用具はすべて全日本軟式野球連盟公認（ＪＳＢＢ）マークを付けたものに限る。

（2）競技者必携 38ページ及び 39ページの規定に反するグラブは使用できない。

３　安全対策

（1）素振り用リングは抜ける危険があるので使用を禁止する。（グラウンドに持ち込まない）

（2）捕手は危険防止のため、必ずマスク（スロートガード付）・プロテクター・レガーズ・ヘルメット・ファールカップを着用すること。（控えの捕手とブルペン捕手も同様とする）

（3）打者、次打者、走者及びベースコーチとも両側にイヤーラップの付いたヘルメットを着用すること。

（4）ボールボーイ、バットボーイもヘルメットを着用すること。

４　塁審

帯同審判制とし、必ず各チームより２名出すこと。

＜１日２試合＞　第１試合＝第２試合から。　第２試合＝第１試合から。

＜１日３試合＞　第１試合＝第３試合から。　第２試合＝第１試合から。
第３試合＝第２試合から。

＜１日４試合＞　第１試合＝第２試合から。　第２試合＝第１試合から。
第３試合＝第４試合から。　第４試合＝第３試合から。

＜１日５試合＞　第１試合＝第２試合から。　第２試合＝第１試合から。
第３試合＝第５試合から。　第４試合＝第３試合から。
第５試合＝第４試合から。

※　二次予選の準決勝以上は、連盟審判員の３審制で行う。

※　試合の記録については、各試合の帯同審判員４名の内の１名が当たる。
ただし、二次予選準決勝、決勝を除く。

５　試合開始時間

１試合目　　９：００　　４試合目　１４：００
２試合目　１０：４０　　５試合目　１５：４０
３試合目　１２：２０

※ただし、同一チームの試合が連続する場合は、次の試合を 30～60 分程度遅らせる。

６　補助員について

（1）投球数をカウントするための補助員（20 歳以上）を各チーム１名ずつ選出すること。

（2）自チームの当該試合の開始予定時刻１時間前に本部に集合して打ち合わせを行う。
役割は次のとおり。
①守備チームの補助員･･･投手の投球数をカウントして記録する。
②攻撃チームの補助員･･･カウントの補佐。　※なお、攻守交代の際に役割も交代する。

７　その他の注意事項

（1）ベンチ内での携帯マイクの使用は禁止する。メガホンは監督のみ使用を認める。

（2）礼儀に反するような行為はつつしむこと。（言動、鳴り物、携帯マイク等）

（3）抗議できる者は、監督か当該プレイヤーのみとし、規則適用上の問題に限る。

（4）ベンチは、組み合わせ番号の若い方を１塁側とする。ただし同一チームが２試合続く場合はこれにあらず。

（5）試合はスピーディーに行うこと。

（6）ボールボーイは各チームから２名出すこと。（登録選手以外でも良い）

（7）シートノックは行わない。

（8）監督は、アピールや選手交代などをする時は、その身分を明らかにするために、グラウンドコートを脱いで申し出ること。（背番号の確認）

※　監督のタイム及び攻撃のタイムは監督のみとし、コーチやその他の者が代理することはできない。また、選手が伝令として伝えることもできない。